

第Ⅱ部 第2章

^{さとやま}里山・^{ぞうきばやし}雑木林—愛知では今—

岡村 穰

最近、盆と正月になると世の中が変わったと思うことがある。二十数年前の私の学生時代は、開いている食堂を探して一苦労したが、今は、ほとんどの店が営業している。海外に遊びに行く人も多い。講議の出席をとると聞いたこともない姓に出会うことがある。愛知の生まれだと言う。その両親も愛知の生まれで、ルーツは九州だとか。そして、地方は過疎の波に揺られて久しい。

人には原風景というものがある。筑波大学の報告（田島、1989）では、山間地で育った学生は、つくばは山がなくて違和感があり・落ち着かない・寂しい・物足りないと答え、海の近くで生まれた学生は海がなくて寂しい・海が遠過ぎるなどと回答し、幼少年期を親と共に過ごす10才までの生活環境が一生の価値判断に大きく影響することが知られている。15年程前の名水百選が選ばれた頃、学生の自宅から持ち寄った水道水のおいしさ比べをした。愛知県内のことだから当然名古屋市の水道水が一番おいしいと予想したが、一宮の学生は一宮の、岡崎の学生は岡崎の水がおいしいと言う。その中で1人だけ、一宮の学生が岡崎の水がおいしいと言う。尋ねると、小さい頃に岡崎に住んでいたそうで、「お前たちは鮭か？」と笑いあった。

「子ども達は、現在住んでいる場所を故郷にして育っている。」そのように考えると、身近な環境の及ぼす影響について深く考えざるを得

なくなる。また、地方から来た人は、幼少年期を過した土地とは異なる環境で、寂しい思いを抱きながら暮らしていることになる。雑木林に関わる活動をしていると、「パンフレットを見て来ました。柴刈り・炭焼きと聞くと、何故か血が騒ぐのです。」という人が結構多い。

1 なぜ、里山・雑木林？

ひと昔前までは、「都市」と「自然」は、対立的な意味で用いられていた。しかし、近年の都市型社会の成熟とともに、市民のアメニティ志向やふるさと志向の高まりから、都市の中の身近な自然環境が再評価されるようになってきた。多くの人々が「自分なりの人生を過ごしたい」と考えるようになり、自分なりに人や地域と出会うことを望むようになってきた。また、高齢化社会を迎え、団塊の世代と呼ばれる戦後生まれの人々が現役をリタイアする際の受け皿として、帰農も含めた里山・雑木林空間の保全・創出が望まれている。

「都市」と「自然」が関わる話には、水と緑と里山は不可分の関係にあり、読者の中にも、雑木林に対する造詣の深い方々が沢山おられる。ありきたりな内容では非難が殺到するかもしれないが、1999年11月には、愛知県犬山市で全国雑木林会議が開催され、名古屋市立大学芸術工学部も後援団体として名を列ねた。また、同年12月には岐阜市で、愛知・岐阜・三重のボランティア団体の集まりである「まちづくり交流フォーラム」の「水と緑：里山を活かす」分科会が開催され、コーディネーターとして著者が取りまとめをさせていただいた。例えば陳腐でも、その意義と愛知の現状を紹介することも必要であると、勝手に解釈しているので拙文をお許し願いたい。また、里山景観の歴史的な位置付けについては、「芸術工学への誘いⅢ」を参照していただき

たい（溝口、1999）。

2 雑木の森づくり

ここ数年、愛知県下で市民参加による雑木林の保全活動を支援している雑木林研究会（会長：林進 岐阜大教授、会員数約40名）のメンバーとして、各地に支援と称して遊びにでかけている。野鳥や自然観察に興味がある人、教育関係者、行政マンなど多様な人々が集まって、放置されて藪になった緑地の手入れを行っている。但し、現役をリタイアされた人も多いので、職業は聞かないことが多い。名前しか知らない人々が森の中に集まって、作業をし、飲んで遊んでおしゃべりして楽しい時を過ごして帰って、数カ月後にまた出会う。作業は、柴刈りと称する間伐作業や、森の中に広場や道を作ったり、土留めや階段造りを行う。ノコギリやナタを用いた手作業だけでも、人数が集まれば短時間で森の中は見違える程清潔で美しくなる。日本人は、いつの間にか何でも専門家に任せてしまい、責任までも押し付けてしまうようになった。自分で汗をかいて作業をすることによって、市民参加の方が良いことと専門家の助けが必要なことの見極めがつくようになる。また、公共事業に対する目が養われ、公共物に対する愛着も生まれてくる。

人間の身近にあって、生活の様々な面で利用されるような森林を日本人は里山と呼んできた。近年、都市近郊の森林の開放が人々の健康増進に及ぼす効果が高いことが認められ、都市圏の拡大によって身近な里山が次々と姿を消していく中で、休養の場としての森林の活用を求める声が大きくなっている。また、住民自身の秩序によって保たれてきた我が国の里山を、再び市民参加によって保全し活用していくこ

とが、今日の地方自治体の重要な課題ともなっている。

古い歴史をもつヨーロッパの諸都市は、アムステルダム、ウィーンの森、ブローニュの森といった有名な森林をその周辺に持っている。そこでは、住民の休養を目的として、広葉樹を中心に樹種や樹齡が多様で自然度の高い森づくりが行われてきた。これは、ヨーロッパの人々の自然への精神的回帰に根ざしていると言われている。特に、イギリスでは、国民の76%が年1回以上農村地域に出かけ、農村を楽しむことがライフスタイルの一部になっている。自然環境や歴史的風景へも高い関心を示す中で、BTCV（イギリス環境保全ボランティア・トラスト）等の市民団体による里山保全活動が行われている。また、イタリアのミラノ市郊外の市民による森づくり活動（BOSCO IN CITTA）も有名である。

3 里山・雑木林の魅力

里山とは、集落近くにあり薪炭用や山菜取りに利用されてきた山や森林を指す。植林もあるが広葉樹を主体とする雑木林が多く見られることから、里山というと雑木林を想起する事が多い。林業関係者からは、用材として役に立たない木が繁る雑木林（ごつぽくりん）とも呼ばれている。雑木林（ごうきばやし）が薪炭用として使われたのは古代からであるが、農業生産や農家や都市居住者の生活と関わって体系的に利用されるのは江戸時代以降のことであると言われている。化学肥料のない時代にあって、新田開発に伴う緑肥や堆肥の供給源でもあった。その後、1960年代までの400年近く、人々によって極めて集約的に利用されながら、決して消滅することなく長く維持されて来た。

その秘けつは、萌芽更新にある。萌芽更新とは、広葉樹を伐採することによって、切り口付近から脇芽が発生し、その脇芽を15～20年周期で育て上げては伐採をくり返すという作業である。放置すれば数十年で木の寿命が尽きてしまうところを、萌芽更新によって半永久的に活用することができる。また、間伐材を稲かけの用材等の農業用資材や地域の特産物である工芸品の加工用に利用したりして、それぞれの地域の自然環境に適した固有の森林文化を形成してきた。

また、間伐によって樹冠に隙間ができ、林内に太陽光が差し込むようになる。それを待ち受けていたように林床の草木が花を咲かせ、昆虫を呼び、虫を食べにくる動物や鳥を呼び込むことになり、林内が急に活気づく。数年立つと脇芽が伸びて茂り、林内は暗くなり、林床植物は休眠に入る。雑木林の動物達は、更新のローテーションに従って移動していくことになる。

亀山（1996）は、雑木林の魅力について次の4項目をあげている。

1. 地域の人と自然の長いつきあいの中で形成されてきた歴史的文化的遺産である。
2. 雑木林の植生管理によって、生物的多様性が保たれている。
3. 四季の変化のある美しい景観を地域に提供している。
4. 持続可能な賢い利用（Wise Use）に富んだ林である。

4 雑木林と接して思うこと

愛知県西部の里山・雑木林は、尾張東部から知多半島にかけての丘陵部に点在する（写真1）。東海層群と呼ばれる砂礫混じりの脊悪な一連の地質は、東海湖という淡水湖の堆積物が、伊豆半島の北上衝突に伴う造山運動によって隆起して形成されたと言われている。そして、

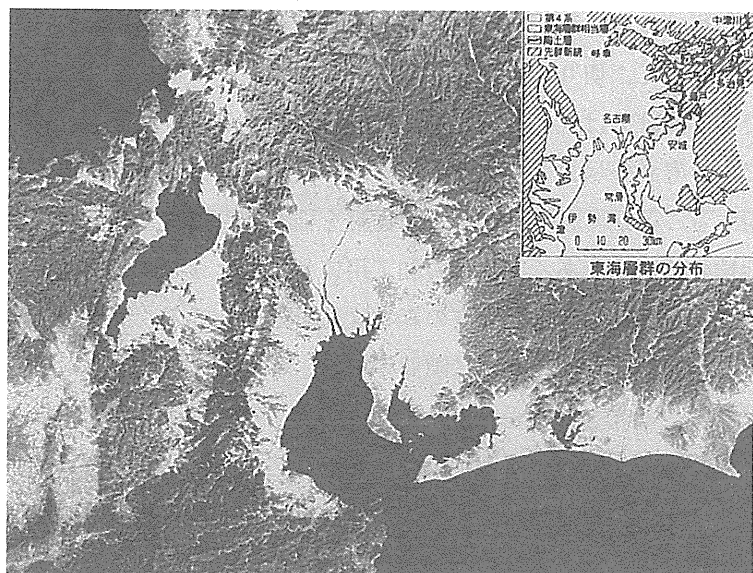


写真1 愛知県西部の地形及び地質



写真2 名古屋駅の車窓風景

この地域は愛知万博開催・中部新国際空港開設という21世紀初頭を飾る大プロジェクトが産声を上げている。新幹線で東京へ向かう時（写真2）、天白区相生山や瀬戸市の丘陵部の緑地の景観は南北に延びる名古屋都市高速道の遮音壁によって遮られることになり（写真3）、市街地を抜けた後で三河地方の平野部に抜けるまでの数十秒間のみ尾張東部丘陵の姿を車窓の間近に見ることができる（写真4）。

中日新聞（1999. 8. 3）に興味を引く記事が二つ載っていた。1. 統一ブランド『Will』誕生（朝刊）。2. 就職難…若者はアートに生きる—美大・芸大の人気急増（夕刊）。一見、里山・雑木林と何の関係もない記事に見える。しかし、前者の記事は、建築学が建築物や都市を、自動車工学が自動車を、道路工学が道路をつくるという専門に分化した現在の状況が、いろいろな製品をバラバラに社会に放り込んで、矛盾に満ちた人工環境をつくり出し、廃棄物処理問題などで自然環境に対して大きな負担を与えていることを考える時、異業種が協調して製品をつくり出すという話が出始めただけでも大きな進歩であると考えている。里山・雑木林において手慣れた造園業者や土木業者がバラバラに自然環境の技術を駆使すれば、自然破壊になることもあるということも関連して記憶しておく必要がある。後者の記事は、江戸時代中期の閉塞期に、芸術性を高めた俳諧の普及が人々の連携を促進し、不確実性の中で政治経済思想をも革新させ、論理的模索とともに情緒的共感が新たな市場経済状況への適応を支えたこと（小室、1999）と関連して、インターネットやコンピューターグラフィックスといった情報伝達や表現手法に関する新しい技術を使いこなしていく若者達が、今日の閉塞した時代を革新していくのではないかという期待を込めて読ませていただいた。



写真3 新幹線車窓より相生山緑地方向



写真4 新幹線車窓から大高緑地方向

5 里山の風景づくり

雑木林は、武蔵野の農民にとっては日常的な現実であったが、国木田独歩の小説「武蔵野」の成功によって、日本の風景となった。関東には、中部以西の常緑広葉樹が混じる森は雑木林ではないと言いきる人もいる。我が国は、過去を捨てることによって近代化を達成してきた経緯があり、固有の歴史的な環境を良しとする自信がないとも言われている。里山・雑木林の風景を単に1地域や我が国固有のものとして位置付けるのは、尚早かもしれない。高度経済成長を達成した今日においては、里山・雑木林の中で、ヨーロッパの人々が目指したような自然への精神的回帰を計りつつ、世界各地の人々との文化的交流を深めることが必要であると考えている。

6 愛知の事例

市民参加による里山・雑木林の保全活動は、指導者に恵まれたこともあるのだろうが、東京や大阪近郊の大都市圏から始まった。晩秋の犬山市で開かれた第7回全国雑木林会議も、名古屋からスタートしている。現在、全国で沸騰している里山保全活動は、極めて都会的なセンスを持った活動であることを記した上で、愛知の事例を紹介したい。

■愛知たいようの杜：ゴジカラ村（長久手町）

特別養護老人ホーム「たいようの杜」を中心に、幼稚園や福祉専門学校を含めた森に囲まれた一帯をゴジカラ村と呼んでいる。平成9年

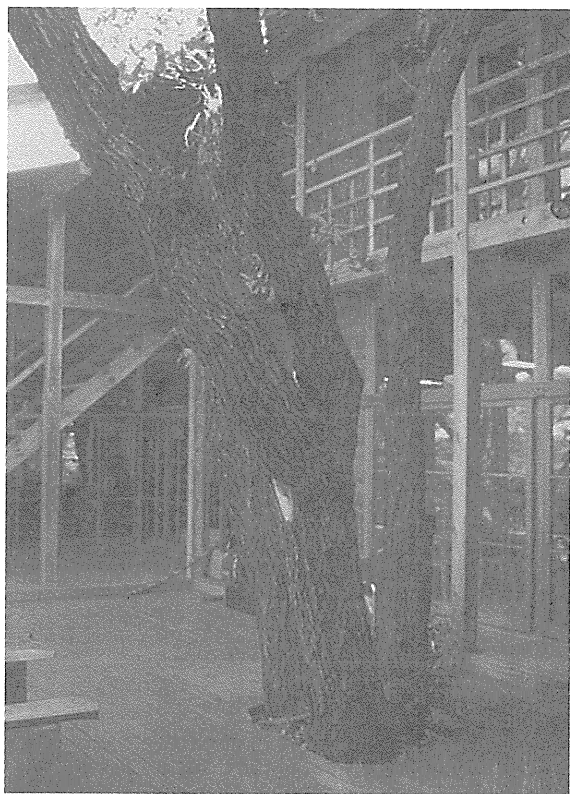


写真5 ゴジカラ村の建物

度の愛知県人にやさしい街づくり大賞を受賞したことで知られている。人々が仕事を終えた午後5時から（ゴジカラ）集まって、みんなで楽しもうということで名付けられた。毎年10月には「どんぐり広場」という、森の中で多くの市民が集まるバザーやお祭りなどの交流会が行われている。幼稚園と福祉専門学校の建物群は、たいようの杜の施設長である吉田一平氏の「森の中の施設をなるべく木を切らないで、平坦に造成しないで造りたい。」という条件を満たしつつ整備された。工事の人は慣れない仕事で大変だっただろうけれども、やればできる

もので、常時500人位が生活し、出入りする人も含めると8～900人にもなるというのに、喧噪が感じられない不思議な世界を作りだしている。三河杉を用いた建物群は、先年の九州芸術工科大学での国内研修の際、猿投の県緑化センター本館とともに、世界の自然共生型建築物の一つとして不意に紹介されたので驚いた記憶がある（写真5）。

■「相生山緑地オアシスの森」づくり（名古屋市天白区）

相生山緑地（123.4ha）の周辺には数十万の住民が住んでおり、身近で貴重な緑地となっている。整備費用の大半が土地代金に費やされる従来のやり方を変えて、公共機関に貸した場合は都市計画税と固定資産税が免除されるという特典付きで、20名の地権者に対して借地交渉が始められ、2年間で98%の土地が無償で借用できるようになった。平成9年度には先行取得地も含めてノーコンクリートで最小限の整備が行われ、その後の整備は市民活動に委ねられた。

市民参加の保全活動は「右手にノコ、左手にビール、キズと弁当とビールは自分持ち」を合い言葉に作業が行われ、森の手入れが進むにつれて、「集いの広場」と呼ばれる空間も造り出され、参加者の交流に大きな役割を果たすようになった（写真6）。さらに天白生涯学習センターとの協力で市民ボランティアの掘り起こしも行われた。後に名古屋方式と呼ばれて全国に定着した活動は、名古屋市農政緑地局の小池さんという篤実な行政マンと天白公園整備等で培われた地域の人々の輪が結実したものであると考えている。平成11年度の名古屋市都市景観賞を受賞した市民ボランティア活動グループ「相生山緑地オアシスの森くらぶ」が発行するニュースレターは、内容・印刷ともに、ボランティア活動とは思えない程の出来映えで、市民参加の凄さを見せてくれる。



写真6 相生山緑地オアシスの森

■愛知県里山保全事業（美浜町・御津町）

平成8年度から、環境庁の補助を受けて愛知県環境部自然環境保全室を中心に、知多郡美浜町の名鉄の所有地30haと宝飯郡御津町の団地の緑地計画地をそれぞれ無償で借りて行われている。

低学年用の「親子里山探検隊」では自然とのふれあいを、高学年用の「里山少年保全隊（里ちゃんクラブ）」では身近な自然管理を、大人用の「里山保全アドバイザー養成講座」ではリーダー養成を目的として行われている。各地区に、地元自治体、自然観察指導員、地元の区長等が集まった里山推進委員会を作り、事業の企画及び実行を行っており、将来は「自然との共生を進める町づくり委員会」へと発展してもらいたいと県の担当者は語っている。養成講座で配付された里山保全ハンドブックの基礎編と応用編は、手軽で内容も濃く、里山保全活

動を理解するのに良い。また、里ちゃんクラブの隊員手帳は、大人にも分かりやすく書かれてあり、重版が望まれる（写真7）。



写真7 里山保全アドバイザー養成講座（美浜町）

■ トヨタの森：フォレスタヒルズ・モデル林（豊田市）

トヨタ自動車（株）が、里山の整備・活用・保全に関する活動を実際に体験しながら考えていこうと、平成9年に本社近くの雑木林に実験林を構えたのがトヨタの森である。竹林の管理・チップ舗装・炭焼き・湿地の保全・ため池の浄化など、多くの取組みが整然と行われている。1998年から3年計画で行われている「エコのもりセミナー」では、「里山インタープリターズキャンプ」「森遊びフェスタ」「森遊び倶楽部」「森づくりミーティング」と目的の異なるプログラムが用意され、毎回、神奈川の中川重年氏をはじめゲストとの語らいは楽しい。

また、里山に少しうんざりしてきた人には、隣接の豪華な「ホテルフォレスト」での一時が心を和ませてくれる。セミナー事務局の発行する機関誌は、全国の情報も掲載されて、一読をお勧めする（写真8）。



写真8 トヨタの森—湿地植物園—

■朝倉川育水フォーラム（豊橋市）

豊橋青年会議所が中心となって、平成7年に結成され、個人会員が650、企業・団体の会員が150で、NPOの法人化も既に行ったすごい活動グループである。「朝倉川にホタルを戻そう」をスローガンに、水源林の確保・里山づくり運動の推進、川縁への植樹、530（ゴミゼロ）運動の推進など、河川の上流から中流まで総合的な視野で活動に取り組んでいる。1 昨年の530大会では1,500人が参加して、自転車38台・ゴミ50tを、昨年は2,200人参加で自転車14台を回収したとのこ

とで、企業と学校・地域を巻き込んだ組織力には驚くばかりである。

その他、犬山、小牧、春日井、瀬戸や藤岡町などで数多くの住民参加による里山保全活動が行われている。三河部では、ホテルに関わる身近な環境保全の取り組みも盛んである。市民参加の里山・雑木林の保全活動では、繁り過ぎた木を切ったり森を手入れすることによって、雑然とした藪が爽やかな森や林に生まれ変わり、作業を行った翌年にはもう多様で豊かな自然が復活し始めてくれるという、正直な自然と向き合う喜びとともに、ボランティアで自然環境の保全に関わる世俗的な欲のない人々との交流も同時に楽しむことができる。

「西の空を雁が渡って行く。」国定忠治の名セリフに涙した日本人は多かった。水と緑：里山を生かすことによって日本の原風景が復活し、せめて孫の世代には、国際社会の舞台の上で、忠治のセリフに再び涙してもらいたいと思っている。

参考文献

亀山 章 雑木林の植生管理、ソフトサイエンス社、1-4、1996.

小室正紀 草莽の経済思想、御茶の水書房、119-124、1999.

田島 学 景観とアメニティ、環境科学Ⅱ・人間社会系、河村・高原(編)、朝倉書店、368-389、1989.

溝口正人 日本における自然景観の歴史的変遷、芸術工学への誘いⅢ、柳澤忠(編)、165-187.